

# トルコ・フィールド便り

NO.1 2024年6月



**Merhaba!** (こんにちは) 2024年の2月よりトルコのイスタンブールにあるUNFPAの東ヨーロッパ・中央アジア地域事務所で、JPOを通してモニタリング・評価プログラムアナリストとして勤務している佐藤有里香と申します。

## イスタンブールについて

イスタンブールは、ボスフォラス海峡を挟んで、ヨーロッパとアジアの二つの大陸にまたがるトルコ最大の都市です。イスタンブールは紀元前に古代ギリシア人が建設したビザンティオンから始まり、ローマ帝国、ビザンツ帝国、オスマン帝国など様々な帝国の支配を受けてきました。イスタンブールの街を歩くと、様々な文化の影響を受けていることがよくわかります。例えば、イスタンブール旧市街にあるアヤソフィア・モスクは、元々ビザンツ帝国時代にキリスト教の大聖堂として建築されましたが、オスマン帝国時代にイスラム教のモスクとして改修されました。また、トルコにはハمامと呼ばれる公衆浴場がいたるところにあります。こちらも元々はローマの公衆浴場文化からはじまり、オスマン帝国下で発展したものです。



(イスタンブール旧市街の街並み)

トルコ料理は世界三大料理のひとつで、日本人にも馴染み深いケバブやドンドゥルマ(トルコ風アイス)から、ピデと呼ばれるトルコ風ピザや、キョフテと呼ばれるハンバーグのような料理など、食文化がとても豊かです。国民の99%がイスラム教を信仰していると言われてはいますが、夜はバーでお酒を嗜む人の姿も多く見かけますし、地中海沿いにはワイナリーが点在するなど戒律はそこまで厳しくありません。ただ、イスラム教の教えの影響で、豚肉は殆ど手に入りません。オフィスの周りにはトルコ料理のお店が多く、同僚とお昼に行く際には、大体ケバブかトルコのローカルフードを食べますが、最近オフィスの下にあるスーパーで、おにぎりとお寿司を見かけるようになりました。

## UNFPAについて

UNFPAは、2030年までに達成すべき3つの目標を掲げています。

①妊娠・出産における妊産婦の死亡をゼロにすること、②家族計画サービスへのアクセスへのニーズが満たされない状況をゼロにすること、③有害な慣習とジェンダーに基づく暴力をゼロにすることです。

①はわかりやすいかと思いますが、②は、全ての人が、妊娠や出産、家族計画について自分たちの意思で決定をできるように、適切な知識や必要なサービスへのアクセスを向上させることを指しています。国連「人口」基金と言うと、人口を増やそうとしているのかと言われることもありますが、あくまでUNFPAのミッションは、人々が自分たちの権利を理解し、本人の意思が尊重されて、性や出産において自分自身で決められることを目指しています。また、③は児童婚などの慣習や、ジェンダーに基づく暴力を廃止するという目標ですが、これらの背景には、ジェンダーに基づくステレオタイプや社会規範、家父長制が大きく関わっています。

## 東ヨーロッパ・中央アジア地域事務所について

東ヨーロッパ・中央アジア地域事務所では17の国を管轄しています。これらの地域は、EUやロシアなど様々な地域の影響を受け、過去数十年の間に政治・経済・社会面で大きな変化を経験し、また自然災害や戦争の影響もあり、特に女性やエスニックマイノリティ、若者は脆弱な立場に置かれています。職を求めて国を出ていく若者や、逆に移民として国に入ってくる人も多いことに加えて、少子化が進んでおり、人口変動への対応が求められています。また、妊娠・出産における安全な医療サービスの提供やサービス提供者の技術や知識という面でも課題が残るほか、ジェンダーに基づく暴力の問題も深刻となっています。

UNFPAの東ヨーロッパ・中央アジア地域事務所では、Population Dynamics(人口動態)、SRH(性と生殖に関する健康)、Youth(若者)、Gender(ジェンダー)、Humanitarian(人道支援)などのチームがこれらの問題に取り組んでおり、私はその中でも分野横断的なM&E(モニタリング評価)のチームで働いています。



(オフィスには、管轄する国の国旗が飾られています)

## 担当業務について

私の担当業務は大きく分けて二つあり、①モニタリング・評価面での管轄国事務所のサポート、②Results Based Managementと呼ばれる結果に基づいたデータの管理や分析です。

### ①国事務所のサポート

国連は、世界各地の国ごとにUnited Nations Sustainable Development Cooperation Framework(UNSDCF)と呼ばれるSDGsを達成するための具体的な目標を定めています。また、それとは別に、UNFPA全体としても、上記に紹介した、2030年までに達成すべき3つの目標を掲げています。UNFPAの各国事務所は、これらの様々な目標を基本としながら、その国の背景や問題を踏まえて、何年後までにどのようなことを実行・達成するかを記した戦略計画を数年ごとに策定しています。その後、計画に基づいて、どれくらい達成できているのか、どのような改善ができるのか評価する必要があります。そこで私は、管轄している各国事務所がより質の高い戦略計画を立て、評価を行う上でのサポートを行っています。



(モンテネグロで行われたワークショップ)

### ②Results Based Management (結果に基づいたデータの管理や分析)

ウクライナをはじめとして、管轄する国々では人道支援を中心とした様々なプログラムが行われています。例えば、女性や少女が暴力から身を守るためのセーフスペースの提供や、ディグニティ(尊厳)・キットと呼ばれる、石鹸や下着、生理用品が入ったキットの配布などです。これらの成果を数字として把握することは、プログラムをより向上させるためにも、ドナーや本部への説明責任を果たす上でもとても重要です。そこで、私はこれらのデータを各国事務所から収集する仕組み作りを整え、データを分析して、データの質を向上させるためのサポートを行うことで、結果に基づいてプログラムや意思決定が行われるようサポートをしています。



(地域事務所のリトリートでの集合写真)